

図書館だより

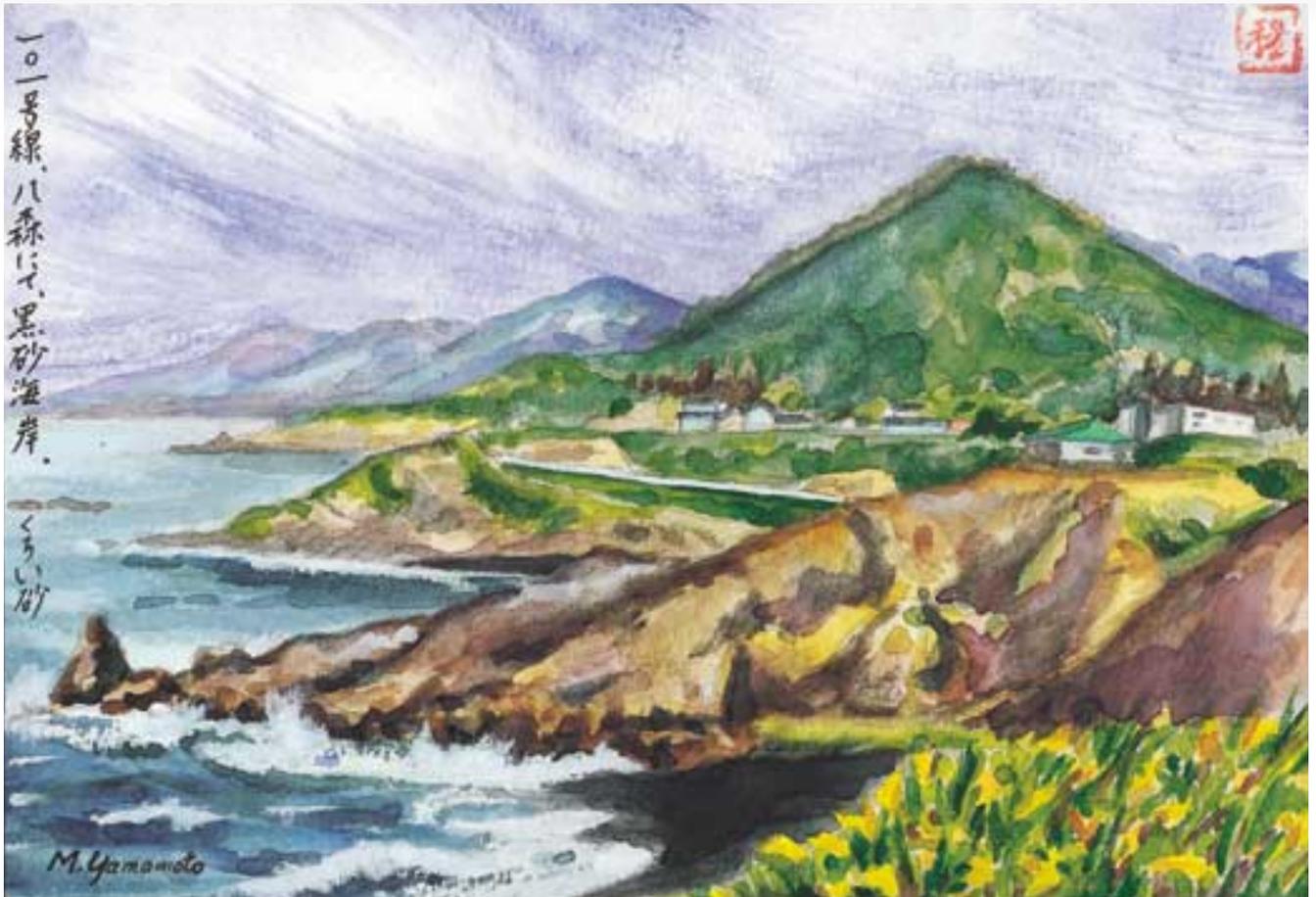
秋田大学附属図書館
年3回刊行(4月・10月・1月)

附属図書館ホームページ

<http://www.akita-u.ac.jp/ktakalib/>

医学部分館ホームページ

<http://libra.med.akita-u.ac.jp/>



真澄の道を辿って4 国道101号線。八森町より見た黒砂海岸。真黒な砂に驚かされる。南北に樺の浦、鹿の浦、茂浦とつづく。
「...晴れたる空の雪の眺めことにおかし。樺の浦になりぬ。...鹿の浦の坂、泊川の坂とて二坂三坂を越う。海の見渡しおもしろし。」
(雪乃道奥、雪の出羽路より) 秋田大学名誉教授 山本穆彦氏：画

目次

- P.2 陛下の手はやわらかい 妹尾 春樹
- 3 シリーズ 心に残る一冊(17) 戸田 雅也
トピックス 図書館見学 / AVコーナー
- 4~5 電子ジャーナル 碓子 洋行
- 6~9 Medline検索からすぐに全文閲覧へ
- 10~11 ingentaを使ってみましょう

P.12~13

研修報告

目録システム地域講習会に参加して 竹越 恵子
東北地区大学図書館協議会合同研修会へ参加して 高橋 裕美
図書館等職員著作権実務講習会に参加して 柏倉久美子

- 14 本学教官等著作寄贈図書
希望図書の購入状況
日曜・祝日開館について
- 15 開館カレンダー
- 16 掲示板

陛下の手はやわらかい

医学部分館長 妹尾 春 樹



天皇皇后両陛下の手はやわらかい。

両陛下の手は滑らかで、やわらかく、触れると心地よいです。握手の時には無理な力が入っていないので、

ずっと握手していたくなるような感触です。

両陛下は毎日のように内外の多数の人とお会いになり、にこやかに話しされたり、握手されたりするのでしょうか。子供から老人まで、社会のいろんな階層の人と握手する機会が多いのだと思います。私もそのひとりといえます。

一番最近に私が握手したのはこの3月の赤坂迎賓館におけるレセプションのレシーピングラインの時です。ヨーロッパのある国の国王夫妻が来日し、両陛下が前日皇居での晚餐に招待され、そのお礼にこの国王夫妻が両陛下をお招きしたレセプションでした。森前首相が腰痛のため欠席し、すし屋にいたというレセプションです。

レシーピングラインに続いて、ビュッフェレセプションのため全員がおおきな部屋に移り、両陛下は招待客のなかに溶け込んで、談笑された。天皇陛下

は私に「どういう仕事をしているのですか」とお尋ねになったので「ビタミンAの研究で最近では北極圏まで出かけております」とお答えした。皇后陛下には「解剖学です」とお答えしたら、「杉田玄白ですね」と、微笑んでいらした。

両陛下にはこういう行事は毎日のようにあって、握手する機会も多いにもかかわらず、その手はやわらかく滑らかです。健康に留意し、手も手入れしていらっしゃるのでしょうか。

さて、学生の皆さんや私達がやわらかく保たねばならないものは何だろうか。心と頭が第一に挙げられるのではないかな。もちろん心は暖かく、頭脳は冷たくなければなりません。固くては困ります。常にやわらかく保ちたいものです。そのためにはいろんな手入れの方法があるでしょうが、図書館の利用など最良のものの一つでしょう。医学部分館にしても、勝手に書籍を並べているのではなくて、各講座・診療科の主任の先生方から毎年アンケートを取って、学生さんに読んでもらいたい本を厳選しています。安心して、どうぞ大いに利用して下さい。

(せのお はるき

医学部解剖学第二講座教授)





はかってなんぼ：分析化学入門

河合 潤・樋上照男 編

丸善 2000年 1,700円

戸 田 雅 也

僕はほとんど小説は読まないのですが、今回紹介するのは小説ではなく、化学的な内容の本ですが、僕が大学2年のころに発行された本で『はかってなんぼ』という本です。

この本はタイトルのとおり、“はかる”ということはどういうことなのか、ということを中心に書かれた本で、関西弁のタイトルがおもしろいです。この本は化学の専門家が特に分析化学の専門家が化学を学んでいる人を対象として書いているだけに誰でも読めるというのでもないのですが、化学を知らない人でも高校化学程度の知識を総動員すればある程度は読める気がします。この本は化学を目指す人に

とって“はかる”ことにより得られる化学の面白いところや今までとは違った新しい興味を得られるのではないかと思います。この本に載っている内容は今第一線でやられている研究ばかりなので皆さんが聞いたことがあることも書かれていると思います。

僕はこの本を読んで、配属先の研究室を決めることができた本のうちの一冊なので皆さんも読んでみてはどうですか。この本は僕の知っている化学をやられている方々の間では結構評判の本です。

(とだ まさや 工学資源学部4年)

この本は分類番号433 - Ka93に配架されています。

トピックス

本館

図書館見学

下記の中学校・高校が図書館見学に来ました。皆さん蔵書の多さや、コンピューターシステムに驚いていました。

5月17日 須川中学校 6月6日 増田高校
6月26日 角館高校

AVコーナー

AVコーナーを、2人でも見られるようにしました。
2人用のジャックを貸出しますので申し出て下さい。

『電子ジャーナル』

今後の対応について

附属図書館専門員 碓子洋行

電子出版技術の進歩、インターネットの普及等により、学術資料のオンライン提供の動きが急速な進展をみせ、Elsevier Science社等の大手商業学術出版社や国際的な学協会が積極的に電子ジャーナルの出版に関わるようになりました。

今後、主流になりつつある電子ジャーナルへの対応をどうするかが、各大学の重要な課題となっています。

最近における外国雑誌の価格高騰は各大学の予算を圧迫し、全国大学図書館等が、購読している外国雑誌の種類数も1980年代には38,000種類前後でしたが、現在、20,000種類前後に激減してきていると言われています。秋田大学の場合も10年前には、1,260種類を購読していましたが、2001年度は970種類と減少の一途をたどっているのが現状であります。

図書館では学内に所蔵のない雑誌については、文献を他大学の図書館等からコピーで取り寄せ、利用者に提供していますが、全国的な所蔵種類数の減少は、必要な時に、国内ではコピーを取り寄せることが困難な状態になりかねない状況となってきています。

このような状況のもと、各大学図書館では、電子ジャーナル購読のための予算の確保や購読雑誌の見直し（特に、重複購読雑誌）等の対策を講じ始めています。現在、主な出版社の有料の電子ジャーナルの刊行状況は、Academic Press社が約270タイトル、Elsevier Science社が約1,200タイトル、Blackwell Science社が約280タイトル、Wiley InterScience社が約330タイトル、Springer社が約490タイトルとなっています。各出版社との電子ジャーナルの契約条件は様々ですが、電子ジャーナルを購読するための基本的な条件として、現在、購読している雑誌の中止は認めていないのが現状であるとともに、電子ジャーナル契約のためには、冊子体価格の何%かの上乗せが必要（Academic Press社であれば16%）となっています。

価格の高騰が予算を圧迫し、外国雑誌の購読中止が進んでいる状況で、何故、電子ジャーナルの負担増までしなければならないのでしょうか、電子ジャーナルを契約することのメリットは何なのでしょう？

第一には、電子ジャーナルの契約においては、コンソーシアムを組むことにより、自館で冊子体を購読していない外国雑誌についてもインターネット上で電子ジャーナルの形態で利用できることにあります。例えば、現在、秋田大学ではAcademic Press社の雑誌18誌の冊子体の購読契約をしていますが、電子ジャーナル契約（冊子体価格「18誌」+16%の上乗せ）をしますと、Academic Press社刊行の約270タイトルの電子ジャーナルがインターネット上でいつでも学内の研究室等のコンピュータで閲覧・プリントアウト（PDF形式）が可能となります。このように、Academic Press社以外の4社の電子ジャーナルについても、他大学とのコンソーシアムを形成することにより、自館で購読の

冊子体価格 + 上乘せ分の支払で自館で冊子体の購読契約をしてない電子ジャーナルの閲覧・プリントアウトが可能になることにあります。

第二には、電子ジャーナルの速報性にあります。冊子体での購読の場合は郵送のため、雑誌が刊行されてから図書館に届くまでには数週間かかってしまいます。電子ジャーナルですと、刊行と同時にその雑誌にアクセスし、論文を読むことが可能なため、利用者にとって最新の情報（雑誌論文）を地域格差及びタイムラグがない状態で入手できます。

第三には、電子ジャーナルを契約することにより、論文検索のためのデータベースが利用できます。例えばElsevier Science社の提供する電子ジャーナル（SD21）にはMEDLINE（世界の医学論文が検索できるデータベース）がリンクされていて、MEDLINEで検索した雑誌論文（SD21で提供されている）のフルテキストの閲覧・プリントアウトが可能となります。

以上が電子ジャーナル購読のメリットですが、冊子体購読誌の継続維持（殆ど購読中止が不可能）や、バックファイルが有料等の問題があり、その予算の確保を今後どのように措置していくか、非常に困難な課題をかかえています。

秋田大学図書館としては、来年度の電子ジャーナルの購読契約に向けて、購読雑誌の見直しや予算の捻出方法等についての検討を始めています。

なお、秋田大学図書館ホームページ上で現在利用可能な電子ジャーナルにリンクをはり、利用者に提供していますので、皆さんもこの機会に是非、電子ジャーナルにアクセスし、図書館にご意見等をお寄せいただければ幸いです。

コラム

電子ジャーナルはフクザツ...

電子ジャーナルを誰に提供しているかで分けてみると...

- ① 誰にでも無料で公開。雑誌によってはバックナンバーだけ無料公開というもの
- ② 冊子体の購読者（機関）にだけ無料で提供
- ③ 冊子体の購読者（機関）にだけ有料で提供（冊子と電子Jがセット）
- ④ 購読者に有料で提供（電子Jだけ購読できる）
- ⑤ その出版社の提供する電子ジャーナルを一定金額で全て提供

など様々なタイプがあります。今のところ利用できるのは、①及び② - ③で図書館が購入しているものだけに限られます。⑤の中でトライアル中のものは期間限定で利用できます。

Medline検索からすぐに全文閲覧へ

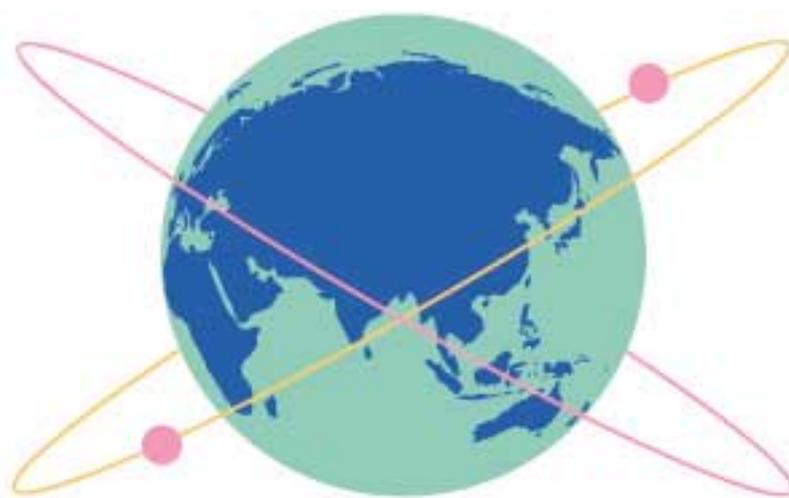
- PubMedと電子ジャーナルのリンク機能を使って -

分館ではSilverPlatter社のCD-ROM版Medlineを購入し、学内LANを通じて検索ができるようにしていますが、インターネット上にも無料の Medline がいくつか公開されており、その代表がPubMed¹⁾です。

PubMedにはCD-ROM版に比べていくつかの利点があり、とりわけ今回ご紹介する電子ジャーナルへのリンク機能は特に便利です。通常、文献入手までには、文献検索 文献のソースの所蔵調査 図書館でコピーまたはILLで学外から入手という流れが一般的で、労力も時間もかかります。ところが電子ジャーナルへのリンク機能を活用すると、文献の検索から入手までの一連の流れを総てパソコン上で行うことができます。

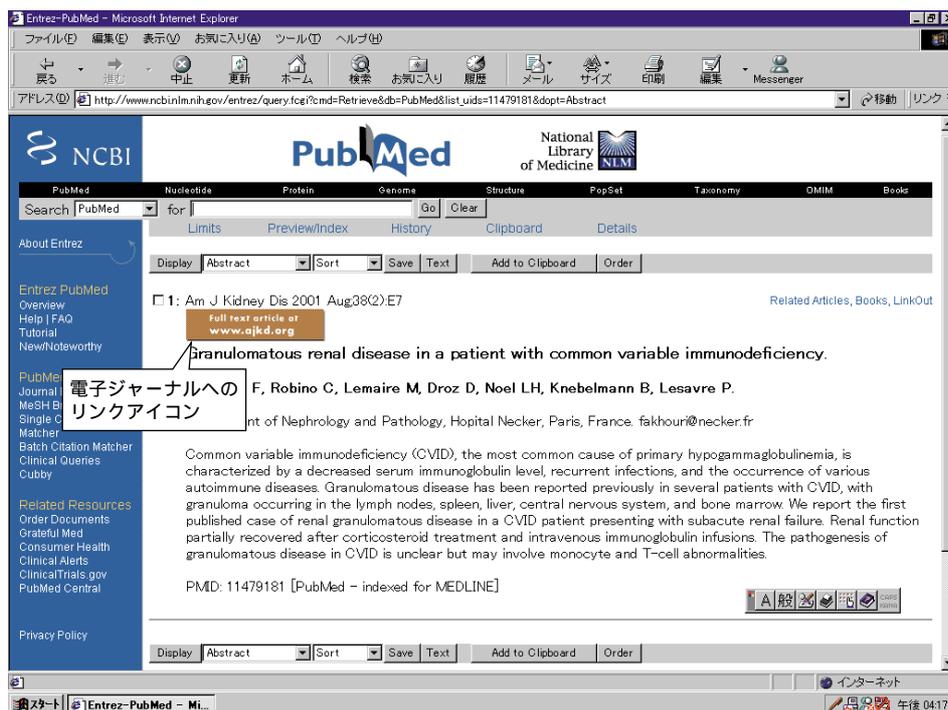
研究者にとって画期的ともいえるこのシステムですが、未だ機能的には万能と言える状況にはありません。一つには電子ジャーナル自体が進化の途上にあり、システムがよく整っていない上、数量的に多くないこと。電子ジャーナルを提供しているのが各出版社であり、電子ジャーナルの提供形態により文献入手までの手順が異なり、わかりづらいこと（5ページのコラムを参照）。一方PubMed側の問題としてはリンクが完全ではなく、電子ジャーナルが存在していてもリンクがない場合があること。

このような問題はありますが、ともかくも今回はリンク機能を使って検索から全文入手へ、さらに参照文献の調査まで、パソコン上で辿ってみることにしましょう。



リンク機能を使った文献調査の流れ

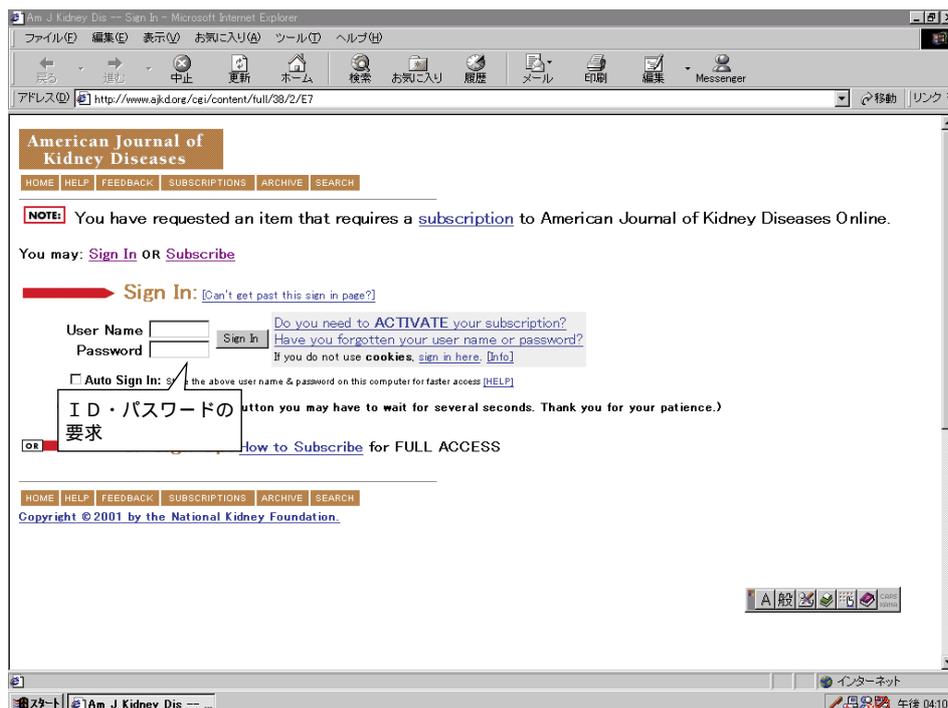
(1) PubMedの検索結果 (詳細表示画面) 【 図 1 】



PubMedの検索結果の詳細表示画面に電子ジャーナルへのリンクを示すアイコンが表示されていたら、そこをクリックします。

PubMedからすべての電子ジャーナルにリンクが張られているわけではありません。分館webサイトの電子ジャーナルのページ²⁾で、雑誌名から探すこともできます。

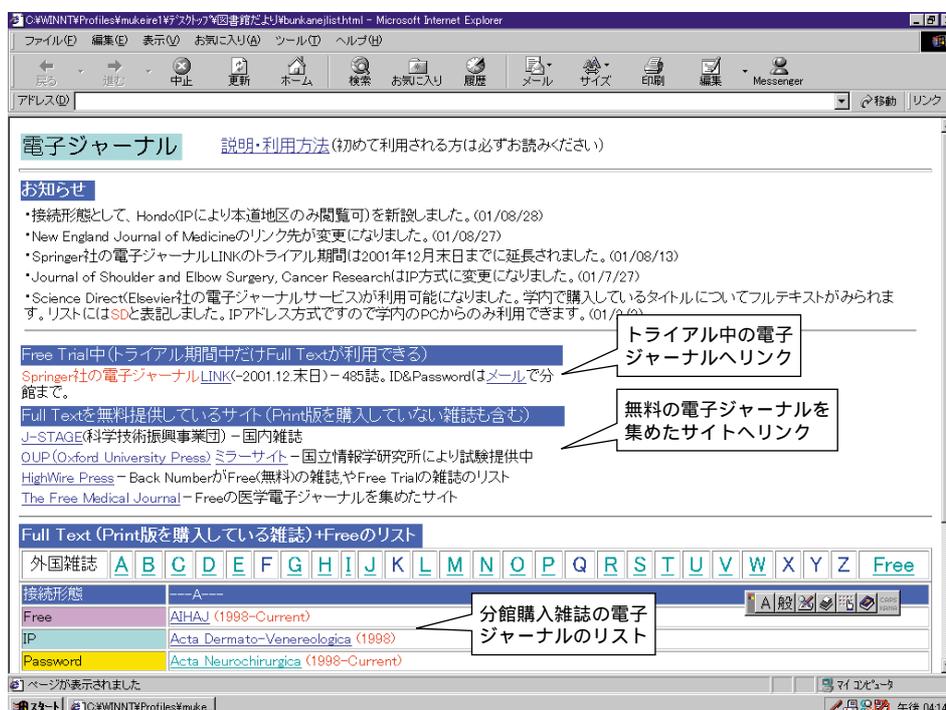
(2) 電子ジャーナルの認証画面 【 図 2 】



この論文の場合、ここで認証画面になりました。ID、パスワードがわからないと全文はみられません。個人または機関として契約をしていることが前提になります。

ID、パスワードは個人で雑誌を購入している場合は登録をして入手できます。

(3) 分館webサイトの電子ジャーナルのページ【図3】



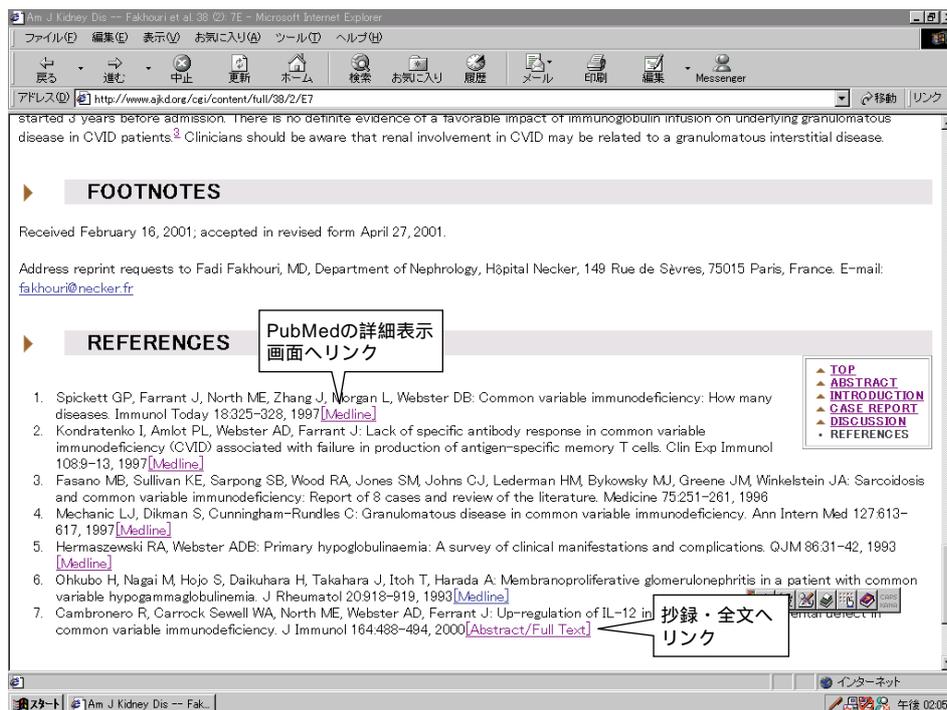
秋田大学で購入している雑誌で電子ジャーナルの契約をしているものについては、分館webサイトでID・パスワードの入手方法がわかります。他にも、無料の電子ジャーナルやトライアル（試用）の情報もあります。

(4) 電子ジャーナルの全文表示【図4】



パスワード等の情報を分館webサイトから得て入力すると、全文が表示されました。
印刷やダウンロードが可能です。

(5) 電子ジャーナルの全文表示 - Reference部分【図 5】



論文のReference部分にもPubMedやAbstract/Full Textへのリンクがされており、関連文献の調査が非常に容易です。

1) PubMed(<http://www.ncbi.nlm.nih.gov/PubMed>)

2)医学部分館(<http://libra.med.akita-u.ac.jp/library/ej.html>) 学内限定ページ



ingentaを使ってみましょう

学術雑誌論文の検索ができるUncoverが、イギリスの電子ジャーナル専門の会社であるingentaと合併し、論文のフルテキスト表示などの新たな機能が加わり一新しました。

ingentaとは？

約25,000タイトル以上の学術雑誌、1,000万件以上（1988年以降）の文献情報を収録しており、あらゆる分野にわたる雑誌論文を検索することができます。

雑誌の目次情報を見ることができます。(uncover plus)

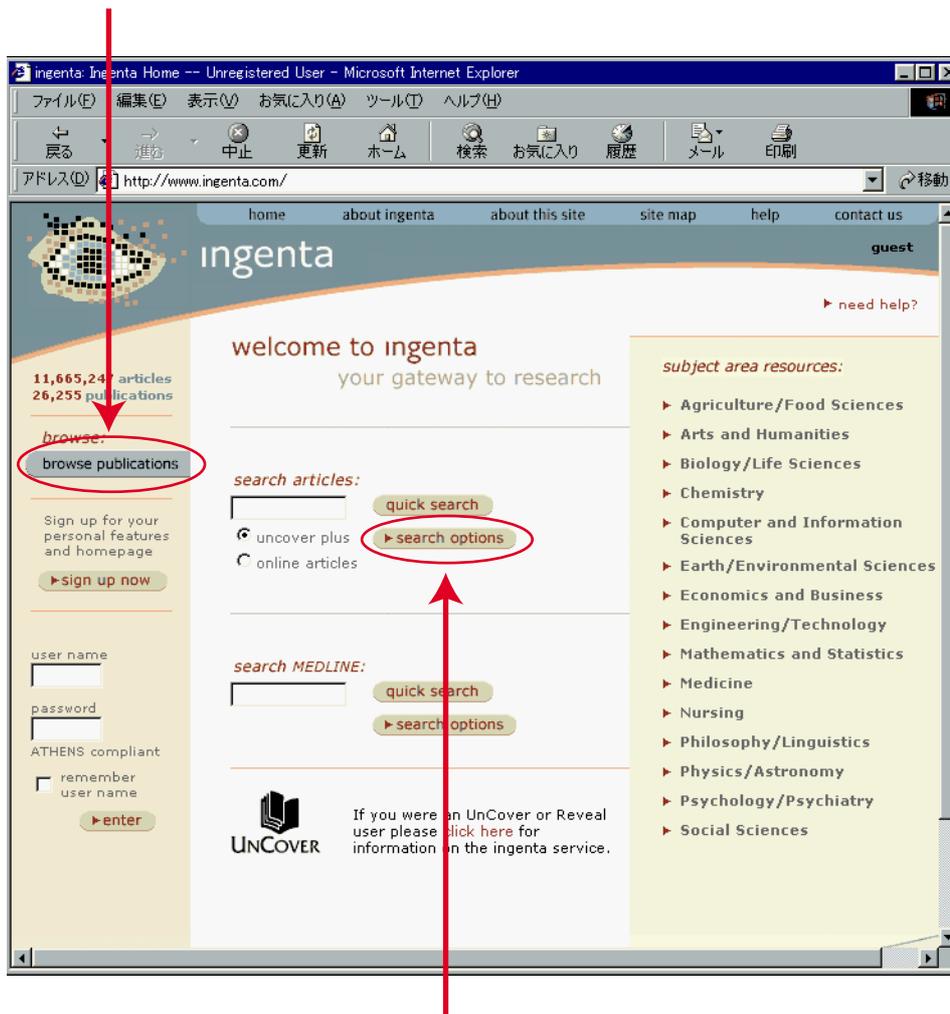
文献情報が電子ジャーナルとリンクされ論文のAbstractやフルテキストを画面上に表示できるものもあります。(online articles)

ingentaを使うには

図書館HPの「論文検索（データベース）」 「ingenta」をクリックします。
(直接入るにはURL：http://www.ingenta.com)

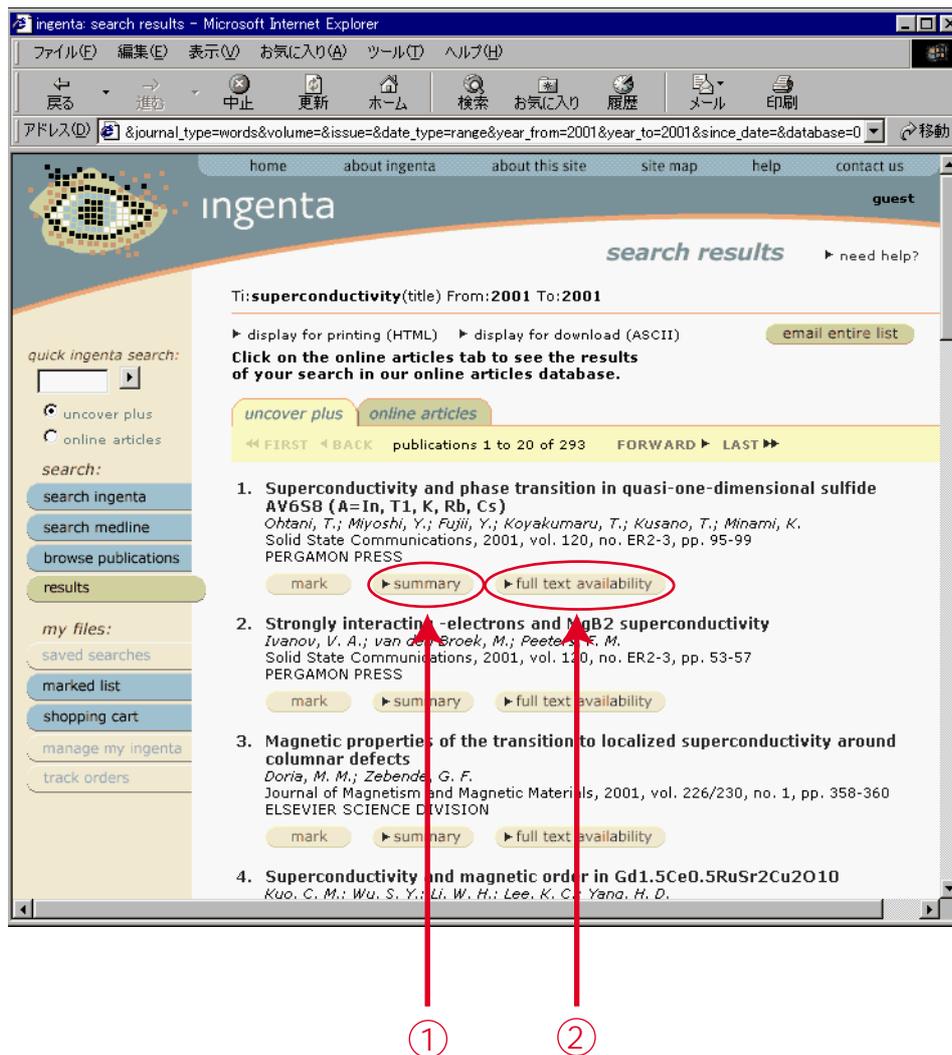
【ingentaトップページ】

雑誌の目次情報はここから（雑誌名から検索）



論文検索はここから（論題、キーワード、著者名などから検索）

【論文検索の結果画面】



① summary

ここをクリックすると論文の詳細が表示され、Abstractが見られるものもあります。

② full text availability

本学で購読している雑誌のうち、図書館HPの「電子ジャーナルfull textサービス対象誌リスト」に掲載されているBlackwellとCatchWord（一部を除く）の雑誌は、ここでフルテキストを画面上に表示できます。（学内からのアクセスのみ可能です。）

! 電子ジャーナルfull textを利用するには以下のような注意事項があります。

- ・ 大量のダウンロードや印刷ページの複製・再配布は禁止です。
（違反をした場合は、大学へのサービス停止・法的措置あり）
- ・ フルテキストはおもにhtml形式、印刷物と同じイメージで読めるPDF形式があります。後者はAdobe社(<http://www.adobe.co.jp/>)のAcrobat Readerがないと読めない
のでダウンロード（無償）後、インストールしてください。
- ・ 利用状況や時間帯によってレスポンスが低下しますのでご了承ください。

研修報告

目録システム地域講習会に参加して

図書情報係 竹越 恵子

去る6月27日から29日の3日間、東北大学附属図書館で開催された国立情報学研究所主催の目録システム地域講習会に参加しました。

この目録システムとは、全国の大学図書館情報の拠点である国立情報学研究所内に各館が所蔵する図書、雑誌等についての書誌情報を取り込みながら、相互に情報検索ができる、総合目録データベースを構築するためのシステムです。

この目録システムでは、参加図書館によるオンライン共同分担入力方式をとることにより、従来のような各図書館毎の目録作成の重複を防ぎ、業務負担が軽減される反面、正確で品質の高いデータベース形成のため、参加図書館にとっては、所蔵する書誌情報について何よりも正確さが求められています。

遡及入力担当としてまだまだ未熟な私にとっては、短期間の講習ではありましたが、とても有意義な講習会でした。

今回の受講生は12名で、講習会は教育モードを利用して講師の説明の後に、各自端末で課題集の20問位に挑戦するという演習方式で行われ、とても実践的な内容のものでした。

この講習会で、あらためて検索の大切さを実感し、書誌新規入力のためのデータ記述方法、操作方法などを知る事ができ、貴重な時間を過ごす事が出来ました。

今後、この講習会で学んだ知識を十分に業務に役立てながら、1日も早く本館の遡及入力業務を完了するよう努力していきたいと思えます。

東北地区大学図書館協議会合同研修会へ参加して

図書情報係 高橋 裕美

平成12年度東北地区大学図書館協議会合同研修会が、7月16日、福島大学が当番館になり開催されました。研修会では、二人の方の講演を聴くことができました。講演内容は、国立国会図書館総務部企画課の尾城孝一氏による「国立国会図書館における電子図書館の推進」と、跡見学園女子大学文学部の福田助教授による「効果的な図書館広報：インターネットアニメーションを中心に」。

尾城氏の講演では、電子図書館とはどのようなものが、そのシステム内容、電子図書館にするこ

とのメリット・デメリット等、国会図書館が考える電子図書館像がわかりやすく話されていました。電子図書館にはあまり現実味を感じていなかった私としては、感心させられる内容ばかりでした。ただ、国立国会図書館が完全な電子図書館になることは不可能ではないかと思っています。電子図書館ができあがっても、紙の資料と共存していくことが必要と感じるからです。あくまでも、個人的な意見としてですが…。

次の福田助教授による講演は、跡見学園女子大学のホームページを实际利用しての講演でした。跡見学園女子大学ではアニメーションや音声を利用して図書館広報や大学説明をしており、視聴覚障害者用に全文を自動的に音声で読み上げるページも試験的に運用していました。見てもらえるホームページにするには、重くなく、ごちゃごちゃしていないこと、そして、インパクトをあたえるにはやはりアニメーションが必要だと認識しました。まだ当館のホームページはアニメーションや音声を利用していないので、少しずつ取り入れていければと思います。

实际のアニメーションを見てみたい方や電子図書館のことを知りたい方は、福田助教授お勧めの <http://www2.justnet.ne.jp/artnavi/> を参照してみてください。

図書館等職員著作権実務講習会に参加して

情報システム係 柏 倉 久美子

平成13年7月25日～27日の3日間、東京大学を会場に行われた、図書館等職員著作権実務講習会を受講してきました。これは文化庁が主催して行う講習会で、東日本地区の大学、公共、学校、専門等の図書館職員462名が参加しました。

講習会の内容は、著作権法概論や各論（図書館に係る部分）の講義と、実務演習（質疑応答）演習問題などでした。

近年は情報のデジタル化やネットワーク化が進展し、同一物の複製が容易であったり、情報が世界に向けて瞬時に、大量に発信できたりと、従来の著作物の利用形態とは異なってきており、注意が必要です。その点についても講習の中で随時ふれられました。

図書館という、図書や雑誌などの著作物に囲まれた場所にいますが、日頃なかなか「著作者の権利」というものが意識されずにいます。著作物に著作権があり、それが守られるべき権利であることを、図書館職員が認識しなければならないのはもちろんですが、利用者にもそれを伝えていく必要を感じました。

本学教官等著作寄贈図書

本学教官が著し、寄贈を受けたものです。ありがとうございます。

図書館では今後も本学教官の著作物を積極的に収集し、利用に供する方針ですので出版のりにはご寄贈下さるようお願いいたします。

- 佐々木和貴 共著 「国家身体はアンドロイドの夢を見るか」 ありな書房 2001
佐々木和貴 共著 「新歴史主義からの逃避」 松柏社 2001
大日方五郎 共著 「制御システム設計」 朝倉書店 1999
大日方五郎 共著 「Model Reduction for Control System」 Springer 2001
今井 祐一 著 「臨床指導医ガイド」 医学書院 2001（分館）

希望図書の購入状況

学生からの備え付け希望資料で購入済み分の一部です。

本館：「隠喩の消滅」「中坊公平の人間力」「日本の万年雪」「隠喩とイメージ」「ビデオNHKプロジェクトX」「グローバル気象学」「国語教育の記号論」「乳酸菌の化学と技術」「乳酸発酵の文化譜」「賢治童話“やまなし”を読む」「LINUXマルチメディアガイド」「マルチメディアガイド」「作文・綴り方教育の探求」「ロールズの憲法哲学」「国際環境法」「読みの授業と発問：想定授業の勧め」「すぐれた授業への疑い」「技術者の倫理入門」「隠喩のポテンシャル」「惑星気象学」「POV - Reyではじめるレイトレーニング」「配色センスの新開発」「人口移動の計量地理学」「電気回路演習」「はじめての将棋」「公民教育総索引」「メダカ学全書」「NPOと参画型社会の学び」ほか

分館：「研究計画書の考え方」「図解生理学」「物理療法学」「運動療法学」「精神医学」「小児科学」「生理学」「病理学」「整形外科学」「神経内科学」「解剖学」「臨床心理学」「老年学」「理学療法研究法」「日常生活活動学・生活環境学」「神経リハビリテーション」「臨床動作分析」
みなさんも欲しい資料がありましたら、備え付け用紙に記入の上、リクエストボックスに投函して下さい。

日曜・祝日開館について

本館では7月と9月に試験的に日曜・祝日開館を行いました。その結果、入館者数は次のとおりでした。

7月8日	169人（8人）	9月2日	207人（0人）	9月15日	274人（1人）
7月15日	345人（5人）	9月9日	189人（1人）	9月16日	229人（2人）

（ ）内は学外者で内数。1日平均236人（3人）

この次は、1月13日、14日、27日、2月3日に行います。

なお、分館の4月から7月までの入館者数の1日平均は199人でした。

図書館カレンダー

(October 2001 - January 2002)

休 館

休暇開館時間 8:45~17:00

平常開館時間 8:45~20:00

土曜開館時間 9:00~17:00

本 館

分 館

OCTOBER

SUN	MON	THE	WED	THU	FRI	SAT
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

OCTOBER

SUN	MON	THE	WED	THU	FRI	SAT
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

NOVEMBER

SUN	MON	THE	WED	THU	FRI	SAT
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

NOVEMBER

SUN	MON	THE	WED	THU	FRI	SAT
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

DECEMBER

SUN	MON	THE	WED	THU	FRI	SAT
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23 30	24 31	25	26	27	28	29

DECEMBER

SUN	MON	THE	WED	THU	FRI	SAT
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23 30	24 31	25	26	27	28	29

JANUARY

SUN	MON	THE	WED	THU	FRI	SAT
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

JANUARY

SUN	MON	THE	WED	THU	FRI	SAT
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

掲 示 板

図書館利用のマナーを守りましょう

館内では静かにしましょう。

ブラウジングコーナー、トイレ、検索コーナーなども、すべて館内です。他の人の迷惑にならないように、静かにしましょう。

携帯電話のスイッチはOFFに

着信音や、話し声も、他の人にとっては迷惑です。

喫煙は決められた場所で

本館での喫煙は、1F喫煙室をご利用ください。分館は全館禁煙です。

飲食は決められた場所で。

本館・分館ともブラウジングコーナーでどうぞ。他での飲食は禁止です。

人 事 異 動

分館長交代

平成13年2月21日(退任) 飯島俊彦 平成13年2月22日(新任) 妹尾春樹

館長交代

平成13年3月31日(退任) 持田行雄 平成13年4月1日(新任) 三浦 傳

氏 名	異動年月日	新 役 職	旧 役 職
長谷川 悦 夫	平成13年4月1日	教育文化学部事務長	図書館事務長
伊 藤 圭 二	"	図書館事務長	経理部契約室長
渡 部 稔	"	医学部大学院係長	総務係長
吉 川 隆一郎	"	総務係長	経理部契約第2係長
鈴 木 和 子	"	雑誌情報係長	利用サービス係長
加賀谷 龍 悦	"	医学部分館図書係長	雑誌情報係長
小 林 清	"	利用サービス係長	医学部分館図書係長

新 採 用

鈴木 尋 美 平成13年4月1日 図書情報係事務補佐員

編 集 後 記

わずかな小遣いを片手に、古本屋街を足を棒にして歩いたのは遠い昔…。世はまさにIT時代。時間やエリアを越えて、無限に広がる世界。

涼しい秋は、ほんの少しお預けにして？知識欲に燃える…そんな秋でも良いかなと思います。

今回の企画・特集が、あなたの情報拡充の一助になればと思います。

図書館だより 第51号 2001年10月1日発行

編集 秋田大学附属図書館出版物編集委員会

発行 〒010-8502 秋田市手形学園町1-1

TEL 本館018-889-2279 分館018-884-6052

FAX 本館018-832-4917 分館018-884-6252